

能美市壮年団とのタウンミーティング

日 時 令和6年4月14日（日）10時50分～11時50分

会 場 寺井地区公民館

参加人数 約30人

1) 開会

2) 市長 市政報告

○はじめに

・「折り紙で作った電車の最多展示数」でギネス世界記録を更新した。北陸新幹線石川県内全線開業を記念して、2万243枚を目標に市民に折り紙を折ってもらったところ、能美市の人口約5万人の2倍強の12万枚が集まった。最近、市民力、地域力が落ちてきているのではないかと考えていたが、やはり能美市はすごいなという思いである。審査の結果、約4万枚が基準を満たさず、記録は8万2,034枚となった。皆さんに覚えていただくために「やったぜ、にっこり、の、み、し」という語呂を作ったので、ぜひ覚えていただきたい。

○令和6年能登半島地震

・能美市内でも震度5強を観測する地震に見舞われた。能美市では人的な被害はなかったが、のり面崩落による市道陥落やマンホール周辺の陥没、美化センターのり面の土砂崩れ、九谷焼の被害等があった。罹災証明書も約1,200件の申請が出ている。市議会で6億4,000万円の補正予算を承認いただき、復興・復旧のため様々な取り組みを行っている。

・能登への支援として、能登の自治体への市職員出向、消防車や救急車、給水車、パッカー車の派遣等も行っており、支援物資を集めたときには、壮年団の皆さんにも大変お世話になった。

・市内には一番多いときで能登から避難をされた方が約250人いらっしゃり、二次避難所で様々な取り組みを行ってきた。各種ボランティアの皆さんにお願いをして、悩みごと・要望の聞き取りや、移動支援、運動不足の予防の取り組み、散髪なども行った。今も約150人ぐらいいらっしゃるの、復興・復旧が果たされるまで、能美市として心に寄り添った支援をしていきたいと思っている。壮年団の皆様にもご理解、ご協力をいただきたい。

○能美市を取り巻く情勢と課題

・社会インフラの老朽化については、特に学校が問題となっている。市内には8つの小学校と3つの中学校があるが、築50年以上のものは、面積比で約35%もある状況である。どうやって建て替えていくか、長寿命化をさせていくかということが大きな課題である。

・一昨年の大雨、今年正月の地震ということで、この自然災害にどうやって向き合っていくかということが大切である。

・企業誘致が大変好調であるが、その分、人材不足、人手不足が大変大きな課題になっており、どうやって人材を確保していくかが課題である。

・市税が好調で、令和元年に初めて90億円を超えた。この一因として、企業誘致による固定資産税の増収があげられる。進出いただいている半導体の会社は、建物だけでなく、中に入る機械が大変高額であることから、全体の固定資産税を引き上げている。

・明るい話題としては、加賀海浜産業道路のおかげで大変交通量が増え、工場群もできるほか、北陸新幹線が3月16日に県内全線開業をしたことがあげられる。

○令和6年度当初予算

・過去最高額の275億円を予算に計上し、令和6年度をスタートしている。

○事業・施策の方針と目的

・7つの事業・施策と5つの方針・目的を掲げ、全ての施策が移住・定住の促進につながるという方針でやっている。

・私は自治体の繁栄を示す数値は、人口増だと思っている。日本のほとんどの自治体と同じように能美市も自然減である一方、今能美市は社会増となっている。ところが、新型コロナウイルス感染症等の影響で生まれてくる赤ちゃんが年々減ってきており、残念ながら今能美市は少しだけ人口が減っている状態である。今後いかに子どもを産みたい、育てた

いと思う人を増やせるか、また、能美市の魅力をさらに高めて、引っ越してくる人を増やせるかということで、人口を増やすために移住・定住の取り組みに力を入れている。

(防災減災対策)

- ・能登半島地震により、耐震改修や危険ブロックを除去する場合の補助額を増額した。
- ・一昨年の大雨を受けて、様々な取り組みを行っており、大雨時に手取川宮竹用水を停水する協定を締結したこともその一つである。これによって手取川宮竹用水を排水路として使えるようになり、市内に降った雨を手取川又は梯川に流すことができるようになった。
- ・大雨で鍋谷川や西川、熊田川も大きな破損を起こしており、今、県や国に支援をいただいて、破損部分の復旧だけではなく、下にたまった土砂の採掘や川幅を広げる工事を行っている。
- ・大雨が降ると手取川の水が西川、熊田川にバックウオーターするという現象が起きる。それを防ぐ門を造る工事に取り掛かるため、今設計を行っている。
- ・地域防災計画の見直しを進めており、身体が不自由な人や高齢者等がいろんな人の助けを借りて、必ず避難できるような取り組みを考えている。
- ・LINEで災害情報等を配信して、いつでもどこでも情報を受け取れるようにしている。危機管理の情報だけではなく、能美市の様々な情報も配信しており、ほしい情報が簡単に取れるようになっているので、まだ登録されていない方はぜひお友達登録していただきたい。

(市民力・地域力の強化)

- ・市民力、地域力を高めていくために、いわゆるふるさと愛の醸成、市民が自分たちのまちを好きになってもらい、自慢してもらえるようにしたいと様々な取り組みを始めており、例えば市史を作り始めている。
- ・来年の2月に市制20周年を迎えるということで、市内の町会・町内会ごとに20周年に向けて機運を盛り上げてもらいたいということから、補助金を新設した。
- ・2025年は能美電が開通して100年、廃線になって45年、能美市が誕生して20周年を迎えるということから2025年秋を目指して、健康ロードの整備を進めている。
- ・昨年度の2学期から中学生、3学期からは小学生も含めて給食費無償化を行っている。給食費が無償化された分を家族の絆を深めるなど、何か子どものために使ってもらいたい。

・寺井地区も根上地区も学校が古くなっており、まずは安全・安心なおいしい給食を子どもたちに食べてもらいたいということから、給食センターを造っており、今年の2学期から給食センターの運用を開始する予定である。

(地域ブランドの確立)

・ウェルビーイング指標によると、買物・飲食や遊び・娯楽のための場所が少ない、移動・交通が不便だというような回答をされた方が能美市民で大変多かったことを受け、地域ブランド確立のため、様々な取り組みをし始めている。

・市内には、県内唯一の動物園や、辰口丘陵公園、手取フィッシュランド、アドベンチャーガーデン能美、児童館も充実しているので、能美市は石川県の中でも遊び・娯楽をする場所は他から比べると高い方ではないかと思うが、市民からするとまだ足りていない、もっと欲しいという結果となっている。

・買物・飲食については、福島グランパーク内に商業施設ができることとなった。まだどんなお店ができるのかわからないが、もしこんな施設が欲しいというご希望があれば、後からお聞きしたい。ここに商業施設ができる理由としては、様々なあるが、福島グランパーク内で約800人の人たちが働いており、女性も多いことがあげられる。

・遊びについては、なかなか新しいものを造るということとはできないが、今あるものをさらにブラッシュアップしていこうと取り組んでいる。和気の岩にドッグランがあるが、大型犬が遊ぶ場所が少ないと感じており、リニューアルする計画である。また、辰口フラワーハウス跡地に道の駅機能を持った施設を造り、辰口丘陵公園やいしかわ動物園に遊びに来た人に、能美市のお土産を買って帰ってもらえるようにしたいと計画している。

・イベントの実施によっても、遊び・娯楽の満足度が上がるのではないかと考えており、様々な祭りを今年度も開催するとともに、今年度はマルシェも開催していきたい。

・施設の整備では、老朽化していたパークゴルフ場のクラブハウスを新しくするとともに道林体育館の隣に新しく公園を造った。また、山口町の翠ヶ丘の運動公園もリニューアルを行い、様々なスポーツが楽しめる場所にしたいと思っている。

・九谷焼の体験施設である、九谷焼美術館 | 体験館 | が高級感を持った施設として今年の秋にリニューアルオープンを予定している。

・買物・飲食については、場所だけではなく、もっと特産品を増やすということも必要だと考えている。そのためには、農業の後継者をしっかり確保し、適切な利益を生むこ

とができるように、支援の幅を広げていきたい。

- ・移動・交通は、能美根上駅が I R いしかわ鉄道に代わったことに伴い、電車の接近メロディーを能美市出身の故・加賀大介さんが作詞した夏の甲子園のテーマソング「栄冠は君に輝く」に変更した。また、能美根上駅の駐車場がいつも満車だということを聞き、拡張するとともに駐車料金の支払いに現金だけでなく、カードや電子マネーも使用できるようにする。

- ・ I R いしかわの定期券所持者はのみバスの定期券を半額とする。また、バスのルートやダイヤ改正、小型タイプのバス導入により利便性の向上も図ろうとしている。

- ・企業誘致が好調な分、宅地がまだまだ少ないという声をいただいている、和光台 5 丁目を新しく分譲するとともに、末信や吉原釜屋に新たな宅地ができた。また、旧金沢大学の所有地やサイエンスパークの開発も検討している。このほかにも空き家や空き地を活用して、それぞれのまちを活性化していきたいと思っている。

- ・保育園の民営化については、現在、市内に15ある保育園のうち、1つが民営化しているが、今度は湯野と緑が丘の保育園を新しい建物にするるとともに民営化していく予定である。

- ・能美市の名前をもっと広めるため、松井さんやシナモロールを用いたシティプロモーションの取り組みを行っている。

(インクルーシブシティ構想)

- ・様々なデジタルの力を使って、市民の利便性向上や地域共生社会構築のための取り組みを行っている。地域共生社会とは、健康な方も高齢者も子どもも障がいをお持ちの方も、そして外国人も、能美市に住む全ての皆様方が安全・安心、快適に暮らしていただけるということである。地域共生社会を英語で言うとインクルーシブと言い、誰一人取り残さないという意味になる。デジタルの力を使ってインクルーシブシティを目指し、「インクルーシブのみ」として様々な活動をしている。

- ・公民館をデジタル公民館として活用していこうと、市内の約80の公民館に W i - F i を整備し、今様々な取り組みを行おうとしている。その一つが、公民館でのオンライン診療である。例えば高血圧や心臓病の方は、毎月 1 回お医者さんに行って診察をしてもらって薬をもらってるが、高齢者になるとなかなか病院まで行けないということから、公民館でカメラを使ってお医者さんに診てもらい、薬を出してもらうというようなことを行おうとしている。

・高齢者や赤ちゃんを産んだばかりの女性など、なかなか買い物に行けない方を対象として、スマート物流といって、インターネットで注文をすると、公民館に注文した物が届くような仕組みを構築しようとしている。

・今、多くの市民から、デジタル化について詳しく説明してほしいというような声をいただいている、インクルーシブシティの話題に特化して皆さんと対話できるような時間を設けたいと思っている。

3) 質疑応答

質問1

【参加者】

・根上校下の海岸清掃について、市からの補助金では足りていない。また、一番の問題が軽トラの手配である。これまで団員の軽トラを使用してきたが、団員減少に伴い、軽トラを所持者がいなくなっている。知り合いから借りると、事故をおこしたときの保険の問題があるので、軽トラをレンタカーで手配する必要がある、そうすると赤字となる。昨年、市にその問題を話したときに、担当の方から「補助金を上乗せするのは難しいが、軽トラの保険代はなんとか市の予算の中から出るように考える」と言っていた。ただ、市からの応援という意味で、何とか補助金自体の上乗せも考えてほしい。

【井出市長】

・経費面については、一度ご相談させてもらいたい。こちらとしても、事業をされる上で必要なものはしっかりとサポートさせていただくので、全体的にどういうものが足りないのか、海岸清掃だけではなく、他の事業等も含めて一度、お聞きしたいと思う。

・壮年団について、私なりにいろいろお聞きしたり、検討したりしているが、考えが及んでいない状況である。団長さんに一度、今後壮年団をどうしていくかというようなお話をゆっくりとさせてもらえるような機会がほしいとお伝えしているので、その機会に皆さんと共に具体的な課題について話し合い、取り組んでいきたいと考えている。

質問2

【参加者】

・ 壮年団の減少に歯止めがかかっていないので、市へ転入された方に、案内をしてはどうか。転入届を出すときに絶対、市役所へ行くので、そのときにゴミの収集のチラシだけではなく、女性会、和老会、壮年団の案内のチラシも渡してもらいたい。

【井出市長】

・ 転入者にお知らせしなければならないことが数多くあり、転入手続時にたくさんの書類を渡しているので、団員募集のチラシをあわせて渡すことはできるが、どれくらい見てもらえるかという問題はあると思う。

質問3

【参加者】

・ 先ほどの20周年事業のお話の中で、町内会が使える補助金のお話があったが、各町内会で申請するものになるのか。壮年団として提案したら、何かできるのか。

【井出市長】

・ 町会・町内会に対する補助金なので、例えば出口町だったら、出口町の町会にしたいことを提案してもらえるとありがたい。

質問4

【参加者】

・ せっかくタウンミーティングの資料を作っていただいたので、今日こちらに来てない方にも、この資料を共有できるようにしたい。

【井出市長】

・ 説明がないと、資料を見るだけでは伝わらないと思うので、何か対応をこちらで検討させていただく。

4) 閉会